

# 朝

礼なんて時代遅れだ。そんなふうには先入観だけで考えている人はいないだろうか。確かに、なんとなく慣習として残っているからという理由だけで、毎日同じような内容を話す場になっていたのであれば、今すぐ撤廃すべきだろう。しかし、もっと深くやる意義について考えてみると、朝礼を行う価値は大いにありそうだ。

「朝礼は情報共有だけの場ではありません。企業のミッションやビジョンの確認をしたり、普段あまり会話をしない同僚や上司とコミュニケーションをとることができる絶好の場です。同じ会社のメンバーであっても、部署が違つたとまったく関わりをもたないことも珍しくありません。朝礼の場を設けることで、社員同士の相互理解を深めることができます」

そう話すのは、社員教育の専門誌『月刊朝礼』編集長の梶谷友美さん。例えば、朝礼で話し合うテーマを決めて意見を出し合うことで、新しい視点に気づけたり、

それぞれの社員のパーソナリティを知る機会にもなるという。また、社員教育の時間として活用することもできる。

「意見を人前で話すことで、自分の言葉で表現する力が自然と身につきます。また、テーマ次第では社会人として身につけておくべきルールやマナーはもちろん、知識や教養、コンプライアンスなどを学ぶこともできます」

1日10分でも構わないので続けること。そうすれば、社員一人ひとりの人間力が上がり、一体感も高まる。より強い組織をつくることができるのだ。

近年、出社や退社のタイミングを自由に決められるフレックスタイム制を採用する企業が増えたことで、個人の好きなタイミングで仕事ができるようになっていく。が、組織としてのまとまりはどうだろう。もしあなたが経営者で、社員の一体感が足りないと感じるのであれば、朝礼の導入を真剣に考えてみてはいかがでしょうか。

(村上広大)

まずは試しに！ 効果的な朝礼を行うための4つのルール

- 1 きちんと時間を決めて実施する
- 2 とにかく続ける
- 3 マンネリを防ぐために司会者は毎回変える
- 4 役職に関係なく、平等に発言させる

横の繋がりだけでなく、縦の繋がりも高められるのが朝礼の魅力。何でも言い合える関係を築くことでトラブルにも強くなる

朝を一緒に過ごすと、社員のやる気がUP!?

## 『月刊朝礼』編集長に聞く、効果的な朝礼の方法



『月刊朝礼』(コミニク出版)は1984年創刊の月刊誌。2000社以上の企業で購読されている。 <https://www.chourei.jp/>

